

令和４年度第１回人材育成のための意見交換会 議事要旨

１ 開催日時

令和４年７月２７日（水） 午前１０時００分～午前１１時３０分

２ 開催場所

広島市役所北庁舎（中区役所）３階 第２会議室

３ 出席者等

(1) 学識経験者・教育関係者・関係団体代表者

深澤	悦子	【座長】（広島都市学園大学子ども教育学部子ども教育学科教授）
伊藤	唯道	（広島市私立保育協会 副理事長）
清川	里佳	（広島市私立幼稚園協会 副理事長）
正木	豊子	（広島市保育園園長会 代表）[欠席]
増田	恵利子	（広島市立幼稚園長会 副会長）

(2) 事務局（広島市こども未来局・広島市教育委員会事務局）

保育企画課	課長補佐
保育指導課	主幹
教育企画課	課長補佐、主査、指導主事、指導主事、主事
指導第一課	課長補佐、指導主事
教育センター	主任指導主事

４ 議題（公開）

- (1) 「各キャリアステージにおいて幼稚園教諭・保育士等に必要となる力」の活用について
- (2) 各団体が実施する研修の相互参加について

５ 傍聴人の人数

０名

６ 意見交換会資料名

- ・資料 １ 令和４年度人材育成のための意見交換会について
- ・資料 ２ 「各キャリアステージにおいて幼稚園教諭・保育士等に必要となる力」の活用について
- ・資料 ３ 各団体が実施する研修への相互参加について
- ・参考資料 「幼稚園教諭・保育士等の人材育成の基本的な考え方」
- ・参考資料 各キャリアステージにおいて幼稚園教諭・保育士等に必要となる力（発言要旨の中では、「必要となる力」という。）

７ 出席者の発言要旨

事務局の説明に対し、以下のような意見・質問があった。

※ ○は学識経験者・教育関係者・関係団体代表者、●は事務局職員の発言を表す。

- (1) 「各キャリアステージにおいて幼稚園教諭・保育士等に必要となる力」の活用について

- 各団体が研修において「必要となる力」を活用していくためには、乳幼児教育保育支援センターが中心となり、各団体の研修担当者を対象とした研修会を開催するとよい。各団体内で研修の計画・実施は、研修担当者が進めていくため、そういった方々が十分に共通認識できる機会が重要になる。
- 「必要となる力」については、昨年度まとめたばかりであるため、現段階では、「必要となる力」の存在を知らない幼稚園教諭・保育士等がほとんどだと思う。
- 「必要となる力」を作成する際に、当意見交換会の中では、具体的な保育についても話題になった。広島市で目指す保育について分かりやすく示したものがあってもよい。例えば、広島市には、広島市教育大綱がある。しかし、対象の幅が広いことや現場レベルでは分かりにくいので、教育大綱をベースにしてそれを幼児教育・保育版に解釈したようなものがあれば「必要となる力」の重要性もより理解されると思う。
- 各団体の研修担当者を対象とした研修会については、開催できるよう検討していきたい。また、広島市で目指す保育については、教育大綱の対象の幅が広いので、幼児教育・保育に合わせてかみくだいたようなものを検討していきたい。
- 3年程前の2月頃に、私立・公立の保育園では、研修部長会議を実施したことがある。これは、研修の講師や日程の重複を避けるために行っていた。こうした会議で、公立・私立の幼稚園・保育園等の研修部の代表者が集まって各種調整等ができるとよい。
- 研修に関する調整を行う連絡協議会のようなものがあれば、所属によらず幼稚園教諭・保育士等が受講する研修を実施しやすくなる。
話は変わるが、幼稚園教諭・保育士等による「必要となる力」の活用例としては、自分のキャリアを見通すとともに、自己評価の視点として活用することができる。
- 私立の幼稚園・保育園には、処遇改善加算に係る研修があり、これも兼ねて実施できるとよい。対象となる研修には様々なものがあるが、国の方針では、教育委員会の研修も可能にしているものの、現段階では、研修を受講したことを証明する認定証を受けられるようになっていない。このような課題を解消していくことと合わせて「必要となる力」を活用し、幼稚園教諭・保育士等が受講した研修を履歴として残していけるようにできるとよい。
- キャリアアップ研修については、私立幼稚園のうち、私学助成を受けている園を除いて新制度に移行した園が受講している。
- 国の方針では、受講した研修履歴を保育士が自分で管理することになっているが、それを県に提出したときに認めてもらえるものかどうか分からない。
- 処遇改善加算に係る研修は、幅広い研修科目のうち、60時間以上受講するようになっている。加算対象の研修とするには、実施主体としての登録が必要だったように認識している。

- 私立保育協会と広島市保育連盟は団体登録をしている。そのため、実施した研修の時間数も計算しており、今年度の後半からは研修の認定証を発行する予定である。

国の方針では、教育委員会の実施する研修の受講も処遇改善加算として認められるようになっているのだが、どのようにして認定されるのだろうか。研修履歴は自己管理であるため問題ないと思うのだが、その辺のことをよく理解していきたい。
- 私立幼稚園協会も広島県幼稚園連盟も団体登録を行っているため、実施する研修は、受講した時間が積み上げられる。例えば、乳幼児教育保育支援センターが実施している広島市幼稚園教諭・保育士新規採用者合同研修会への参加も受講した時間に積み上げることが可能であれば、私立幼稚園の職員がより参加しやすくなる。

私立幼稚園では人員が少ない園もあるため、研修時間に加算されるなら職員に参加を薦めるが、そうでないなら薦め難いという園もある。
- 幼稚園教諭・保育士等が「必要となる力」の一覧の、どの部分の研修を受講したのか把握できる研修履歴が残るシートのようなものがあるとよい。そうすることで、幼稚園教諭・保育士等が個人で自己管理することも容易になる。
- 自園では、職員が受けた研修が分かるよう園でも管理を行っている。それに加え、研修報告を残している。
- 自園では、職員が研修ハンドブックに受講した研修の受講証明としてシールを貼っている。

広島県幼稚園連盟のホームページでは、ホームページから研修に申し込むと幼稚園教諭の研修履歴が自動的に残るようなシステムを構築した。広島県の研修が加算されるようになっているため、広島市の研修についても同様に加算されるようになるとありがたい。
- 公立幼稚園では、広島市教育センターの初任者、2年次、3年次と階層別の研修に対象者が参加している。

自園には、3年次の研修が対象の職員がいる。その職員は、自身の保育を振り返りながら記録に残し、教育センターで同期の他園の職員と研修を受講し、実践の共有やチェックシートを活用して自身の力を振り返ることなどを行っている。

幼稚園教諭・保育士等が「必要となる力」に示す項目のうち1つを理解するまでに大変な時間を要する。先日、広島市幼稚園教諭・保育士新規採用者合同研修会を拝見し、これからの先生方の声を実感した。

幼稚園教諭が幼稚園教育要領に沿った基本的な部分を広島市でどう共有するかということを考えてみると多くの時間や機会が必要になる。
- キャリアアップに加算される研修も、幼稚園教諭・保育士等が受け身の捉えとならないよう、学びたくなる研修にしていかななくてはならない。
- 処遇改善加算に係る研修の件については、県に現状などを聞くなどして調べていきたい。
- 幼稚園教諭・保育士等が「必要となる力」を活用して、自身に必要な力や身についた力を確認することが重要である。また、キャリアアップ研修や研修履

歴に関することを含め、「必要となる力」と研修をどう関連付けていくのかということを考えていかななくてはならない。

- 誰が見ても幼稚園教諭・保育士等が受講した研修を確認することができるよう、「必要となる力」の表の各キャリアステージの資質・能力の各欄にそれぞれアルファベットや数字を付けるなどして整理するとよい。そうすることで、研修を組み立てる際に活用しやすくなる。
- 「必要となる力」は、研修担当者が研修講師の依頼をする際に、どの部分の力を身に付ける研修であるかを明確に伝えることにも活用できる。その際、「必要となる力」を講師に送ることで、講師も広島市の人材育成の概要を捉えてそれに合わせて講演内容を設定しやすくなる。

(2) 各団体が実施する研修の相互参加について

- 広島市保育連盟の「園内研修コーディネーター養成講座」は、その年によって公開する年とそうでない年がある。以前は公開可能としていたが、今年度は、コロナ禍にあって、120名程度と参加人数が多いことなどから会場を広く活用できるよう、会員のみの参加にしている。
- 教育センターの幼稚園主任等研修について、どの団体に所属している幼稚園教諭・保育士等も受け入れていることが分かるよう、研修の名称を変えることは難しいか。
- 広島市保育連盟は広島市からの委託を受ける際に、仕様書に示されている名称を記載するため、そこを変えていただければ変更できる。園内研修コーディネーター養成講座については独自に名称を記載している。
- 広島市保育連盟の園内研修コーディネーター養成講座のような名称であれば、幼稚園教諭・保育士等が対象と内容を捉えやすい。
- 私立幼稚園協会は規模が小さいため、相互参加可能にできる研修を現在は示すことができないが、公立幼稚園の幼稚園教諭には参加していただけるよう案内を出している研修もある。
- 研修の規模も考えなくてはならない。参加人数が多いと対応できる会場が必要になる。また、グループワークを行う研修では、それなりの間隔の確保もしなくてはならない。
広島市保育連盟は研修のYouTube配信を実施している。オンデマンドの研修は可能だが、往還型の研修をオンラインで行うのは基本的に難しい。
また、オンライン研修の公開は、広島市の許可がなければできない。公開可能となれば、講演を聞くことが主である健康・安全や人権啓発に関する研修を公開することができる。その際には、「必要となる力」のどの力を身に付ける研修なのか分かるようにして公開することもできる。ただ、YouTube公開のための動画の撮影には手間がかかるという話を聞いている。同時配信と録画を同時にしながら、音声をクリアにするための機材等も必要である。
- オンライン活用の課題を踏まえつつも、研修の内容だけを見て健康・安全、人権など共通で学べるようなものはあるか。

- リアルタイムの対面形式の研修は、場所の問題がある。現在、広島市総合福祉センターもなかなか予約が取れず、別会場にすると費用がかかるため困っている。そういったことを考えると、リアルタイムの対面研修は、参加拡大が難しい。
- 私立幼稚園協会でも同じように、研修に応じて会場を押さえることが課題である。例えば、広島市の所有する会場を活用し合同の研修を実施できるよう、広島市の乳幼児教育保育支援センター主催の研修内容を私立の研修担当者が一緒に考えさせていただくということができないだろうか。
- 新規採用者合同研修会のような形態であれば、手続きとしては可能だと考える。
- 研修を企画するところから、公立・私立が合同で検討し、研修の実施ができるとよい。同じ内容の研修を数回するのも様々な立場の幼稚園教諭・保育士等が参加しやすくてよい。
- 乳幼児教育保育支援センターが中心となり、各団体の研修担当者がすり合わせできる場所があると私立幼稚園もより研修に参加しやすくなる。
- 研修が多くなると、主催者の立場は大変である一方で、参加者の立場からすると参加しやすくなる。研修講師も忙しく、日程確保が難しい。
- 私立保育協会では、昼間に補助金対象の研修を実施し、夜には参加希望者が参加費を支払えば参加できる独自の自主勉協会を実施している。これまでも公開をしたことがあるため、参加費をどうするのかを考える必要があるが、公開は可能である。
参考として、園内研修コーディネーター養成講座は、会員から 1,000 円、非会員から 9,000 円支払っていただいている。
今年度は、8 月に健康・安全の関係の無料で学べる研修会を開催する。これは公開可能である。
- 相互参加可能な研修については、団体が独自に発信するより、乳幼児教育保育支援センターを通して情報提供していくとよい。さらに、そういった研修の 1 つ 1 つが「必要となる力」のどの力を身に付けるのかを整理していけるとよい。
引き続き、乳幼児教育保育支援センターが中心となり、相互参加可能な各団体の研修を少しずつ増やしながら、将来的に徐々に研修の精選を図り、スリム化をしていくことができると研修の重複や保育者の研修に対する負担感が軽減できるのではないか。
- 広島市教育センターで実施している研修のうち、人権や特別支援などに関する研修を他に実施しているのか。
- 実施している。
- そういった研修を相互参加していくことは難しいのか。
- 対象が幼稚園教諭から高等学校教諭まで幅広いため難しい。

- 幼保小連携の研修に小学校の先生がより参加できるようにするためにはどうするとよいか。また、小学校教諭に就学前の子どもをどのように育てていくとよいのかといった視点を踏まえて理解してもらうためにはどうするとよいだろうか。
- 幼保小連携はカリキュラムを作ることや行事を行うといった目に見えるだけでなく、小学校教諭と保育者が互いの教育内容や保育内容、子どもの育ちについて理解を深めないといけない。

幼児教育・保育には、絵本、リズム表現、食育など、小学校低学年で取り扱教科内容と共通する分野がいくつかある。そういったところは小学校教諭と保育者が共通で話ができる。

例えば、小学校教諭と保育者が、保育と授業を相互に参観し、実際の子どもの姿を通して子ども理解の相違点や気づきについて語り合い、研究会や研修会で対話を重ねながら教科内容と保育内容を互いに理解し合うなどして、子どもの学びのつながりを確認できることが望ましい。
- 例えば、私立保育協会は夜の研修がある。そういった研修に小学校教諭が参加していただけると少しでも幼児教育・保育の理解につながると思う。
- 大変良いと思う。しかし、現代の風潮や働き方改革ということも考えると、参加が難しいのかもしれない。しかし、お互いの子どもの育ちのために歩み寄れることを期待したい。